

課 題 情 報 シ ー ト

テ ー マ 名 :	蔵のリフォーム計画		
担当指導員名 :	谷口 智美	実施年度 :	24 年度
施 設 名 :	中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校		
課 程 名 :	専門課程	訓練科名 :	住居環境科
課題の区分 :	総合制作実習課題	学生数 :	2
		時間 :	12 単位 (216h)

課 題 制 作 ・ 開 発 の ポ イ ン ト

【開発（制作）のポイント】

現在の木造住宅において、その造りは伝統的な構法によるものから近代的な構法に変わり、ライフスタイルの変化も相まって伝統的な造りの住宅が空き家となって放置されている現状が多く見られます。それらの古き良き部分を活かしながら、人々の憩いの場となるような空間を作成し、再生させていくことが求められています。

今回、古民家（既に改修しカフェとして利用されている）に付属する蔵（現在は物置となっている）のリフォームに関する相談があった機会を利用し、リフォーム計画の提案を学生が中心となって実施することとなりました。現地調査やプランニング、そしてプレゼンといった実務的なスキルを習得するとともに、地域貢献にも繋がります。

【学生数の内訳】 調査・計画検討・図面作成・CG制作・完成模型作成：全て2名共に実施

【訓練（指導）のポイント】

まずは「いいものを計画すれば実際の工事に繋がる」ということを伝え、学生に制作意欲を湧かせました。そして古民家再生の現場見学や、事例集の収集などにより情報収集させました。それにより設計に入るまでの過程が如何に大変かを体感させることができました。また、前提条件として建築計画や設計実習、CG制作において習得したスキルが必要となります。当該制作を通じてそれらの基本を復習するとともに、より実務に近い技術（応用力）を身に付けさせることができました。

課 題 に 関 す る 問 い 合 わ せ 先

施 設 名 : 中国職業能力開発大学校附属島根職業能力開発短期大学校
 住 所 : 〒695-0024 島根県江津市二宮町神主 1964-7
 電話番号 : 0855-53-4567 (代表)
 施設 Web アドレス : <http://www3.jeed.or.jp/shimane/college/>

課 題 制 作 ・ 開 発 の 「 予 稿 」 お よ び 「 テ ー マ 設 定 シ ー ト 」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

蔵のリフォーム計画 ～ブックカフェにしよう～

島根職業能力開発大学校
住居環境科 片山 未喜 中村 優希

1. はじめに

近年、少子・高齢化や過疎化等の影響で空き家が増加しており、2008年の調査によると、島根県ではおよそ7軒に1軒が空き家となっている。増え続ける空き家は、老朽化による倒壊の危険、景観・治安の悪化などの問題が懸念される一方で、移住者用住宅としての活用や、古い建物の良さを活かしたリノベーションによって新たな息を吹き込み活用する、といった様々な需要も生まれてきている。

江津市で活動する『風のえんがわ』の方から、「現在、古民家をカフェへと改修しており、いずれは隣の蔵も改修して利用していきたい」とのお話があり、本総合制作において、この蔵のリノベーション計画について検討し、空き家となった建物を改修して活用する計画を作成することにした。

2. 現地調査

(1) 調査概要

蔵の現状図面を作成するため実測調査を行った。メジャーやレーザー距離計を使用して柱間の寸法や柱の長さを、差し金を使用して柱や梁等の部材寸法を実測した。また、現状を記録するため各部の写真を撮影した。



写真1 蔵外観

(2) 現状

蔵の築年数は不明で、壁には改修の跡があり、また蔵の外周三面には下屋が増築されていた。

蔵の内部は小屋までの吹き抜けとなっており、梁や小屋組が現しになっている。1階の梁には数本の材が架けられ物置として使用されていた。

木舞下地の塗り壁には、西面の上部に小さな開口が1か所設けられていた。南面の壁は一部下地や貫ごと取り除かれていた。(写真2) その他にも孔をあけるなど(写真3)手を加えた跡があった。



写真2 南面の壁



写真3 東面の壁

3. 計画概要

(1) 改修設計案

蔵の所有者へ行ったヒアリングから“ゆっくりと本を楽しめる地域の図書館”として利用できる蔵の改修計画を作成することにした。

はじめに、「本に囲まれた空間」「カフェの雰囲気そのままにくつろげる」「親子でくつろげる」「自分のスタイルで楽しめる」をコンセプトにして、採光を確保するため一部吹抜けの2フロア構成で、くつろげる空間として1階に畳スペースを設けた基本平面を作成した。

次に本棚の配置パターン(図1)を考えるため、3次元CADでパースを作成して検討した。もともと蔵は狭いため、1階に本棚やソファを配置するとさらに空間が狭く感じた。そこで、西側の壁全面と2階の南側壁面を本棚とし、文字通り「本に囲まれた」広い空間を確保した。1階南側の一辺には親子でくつろげるソファを、その隣には「自分のスタイルで楽しめる」畳スペースを配置した改修計画案とした。

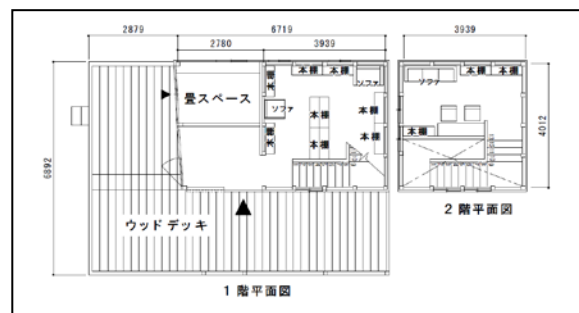


図1 本棚配置パターン例

蔵の所有者にこの改修計画案を提案し、次の要望をお聞きした。(図2、写真4)

- ・子供スペースはなくてもよい
 - ・Caféのある母屋との繋がりをフラットにしたい
- 再検討を行い、子供スペースをなくして畳スペースを広げ、入り口をウッドデッキと同じ高さにした最終改修計画案(図3)が完成した。



図2 プレゼンボード

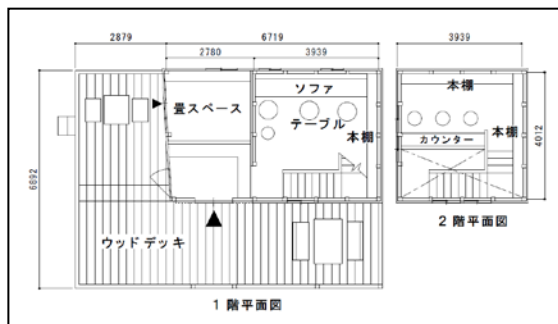


図3 最終改修計画案

4. 模型製作

10月にドールハウス展を見学し、建物や風景をリアルに表現した模型に影響を受け、改修計画案の効果的なプレゼンツールとして、誰が見ても計画のコンセプトや内容が伝わるように細部まで作りこんだ1/20スケールの模型を作製することにした。製作手順を以下に示す。

① 模型用図面の作成

模型製作に必要な部材を拾い出し、型紙となる図面を作成する。

② 模型材料の拾い出し

使用する材料を決定し、必要数量を出す。

③ 加工・組立

型紙通りに各材料を切断し、壁・床・窓・ウッドデッキ等の材料に着色しニスを塗っ

て、各パーツの下準備をしてから組立てる。

④ 仕上げ

外観、地面などの仕上げを行う。



写真4 プレゼン



写真5 模型製作

5. おわりに

本総合制作を通して、初めて自分たちで実測を行うところから計画を進めた。建物の状況を把握し、施主の要望・意見を取り入れながら計画を進めていくことで、設計力・計画力の向上を図ることができた。また、自分たちの考えをまとめることで、伝えることのむずかしさを感じたと同時にプレゼン力も向上したと思う。

今後は、完成した模型を使った最終プレゼンを行うことにしている。



図4 外観パース

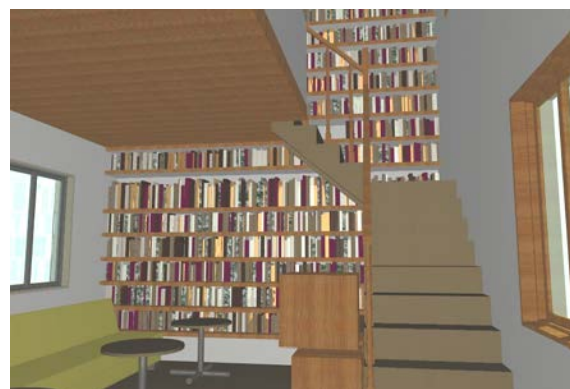


図5 内観パース

課題実習「テーマ設定シート」

作成日： 2012年10月18日

科名：住居環境科

教科の科目		実習テーマ名	
総合制作実習		蔵のリフォーム計画	
担当教員		担当学生	
住居環境科 谷口 智美		片山 未喜	中村 優希
課題実習の技能・技術習得目標			
建築計画や設計実習において習得したスキルをもとに、建物の再生に関する知識や事例などをもとにリフォーム計画の作成、プレゼンテーションに関する知識や技術を身に付けます。			
実習テーマの設定背景・取組目標			
実習テーマの設定背景			
現在の木造住宅において、その造りは伝統的な構法によるものから近代的な構法に変わり、ライフスタイルの変化も相まって伝統的な造りの住宅が空き家となって放置されている現状が多く見られます。それらの古き良き部分を活かしながら、人々の憩いの場となるような空間を作成し、再生させていくことが求められています。 今回、近隣の古民家をカフェへと再生する計画の中で、敷地内の蔵については学生が中心となって再生計画の作成・提案を行うことになった。			
実習テーマの特徴・概要			
近隣の古民家に付属する蔵の再生計画の作成を通じ、計画の作成・提案の一連の流れが身につきます。 リフォームプランを作成していくには、多くの建築設計手法・実例や建物の現況を調査・分析したうえで、一番適した解決法を導き出さねばなりません。本実習を通してそれらを自らが実施していくことで、分析力、問題解決能力を身に付けます。また、3次元CADにおいてそれらの構想をどう表現するかを試行錯誤することで、プレゼン力を習得します。			
No	取組目標		
①	木造軸組構法（伝統的構法・在来構法）に関する知識を習得します。		
②	建物再生に関する事例を調査・分析します。		
③	計画的に物事を進めていく計画力、実行力を身に付けます。		
④	3次元CADによりリフォームのシミュレーションを作成します。		
⑤	発表会の実施により、各種プレゼンテーション技法・機器操作を習得します。		
⑥	報告書等の作成により、文章表現力を身に付けます。		
⑦	実習を通して課題発見、分析能力を身に付けます。		
⑧	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の実現に努め、安全衛生活動を行います。		
⑨			
⑩			